

実践報告資料

研究テーマ『児童の自尊感情を育み、心豊かにたくましく生きる力の育成』

～自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることをめざして～

研究内容【(1)、(2)、(3)、(4)】

学校名（ 尼崎市立難波小学校 ）

ア 人権教育としてのねらい

教育活動全般を通して、児童や保護者の人権に関する知的理解や人権意識を高め、児童の自尊感情や自己有能感、規範意識を高める。

イ 研究の概要

人権教育を学校教育全体の中で、明確に位置付け「自尊感情・自己有能感の伸長」「保護者への啓発」「基礎学力の向上」を柱とし、全教職員で取り組む。また、自他の良さを認め合う、一人ひとりを生かす教育を進め、それぞれが居心地の良い学級・学校づくりをする。

領域	教科	道徳 (特別の教科 道徳)	特別活動	総合的な学習の時間
指導者	推進教員 ALT	3年担任 推進教員	全教員	6年担任 推進教員
実施日	6月9日、6月23日	7月～10月	5月、10月、2月	6月～7月
取組名	If the world were a village of 100 people 世界がもし100人の村だったら	「人権の花」運動 人権教室	ペア学級活動	修学旅行(平和学習) 修学旅行新聞を作ろう
目標	様々な国や文化の中で生きている人と理解し合おうとする態度を育てる。	「人権の花」を児童が協力し合って育てることを通じて、命の大切さや思いやりの心を育てる。 読み聞かせ等を通じて、他国の人々や文化について親しみ、関心をもつ。	異学年交流をすることで、子どもたちの仲間意識を高め、子ども一人ひとりの自己有用感を高める。	様々な体験学習を通して戦争と平和について学び、他者に発信する力を育てる。
資料名	世界がもし100人の村だったら (マガジンハウス 池田香代子)	せかいのひとびと 評論社 ピーター・スピア		
指導内容や指導方法の工夫等	資料を用いることによって、地域、国、性別などによって格差や違いがあることを理解できるようにする。 電子黒板で写真やイラストを提示し状況を想像しやすくする。 ワークシートに感じたことや考えたことをまとめ、持ち帰らせたり、人権だよりに授業の様子を掲載したりすることで、家庭への啓発につなげる。	「人権の花」の成長と児童の成長を重ね合わせて観察する。 人権啓発「差別のない世界へ」の視聴や「せかいのひとびと」の読み聞かせを通じて、他国の人々や文化について関心をもち、更に他国の文化への関心や理解を深める。グループで意見を模造紙にまとめ、交流する。	年間3回の活動を設けることで継続的に意識付けられるようにする。 ペア学級は、1年生と6年生、2年生と4年生、3年生と5年生とし、活動内容は高学年が主体的に考えるようにする。 活動後は、感想をまとめるなどふり返りを行い、次の活動に生かせるようにする。	事前学習として、平和記念資料館のパンフレットや戦争に関するリーフレット、新聞などを読み、調べ学習を行う。 学校図書館を活用し戦争や原爆についての読み聞かせを行う。 平和記念資料館で見学して感じたことや考えたことをまとめ、話し合いながら考えを深める。 5年生に伝えるという目的意識をもって新聞にまとめる。